
お礼

蒼

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お礼

【Nコード】

N0746I

【作者名】

蒼

【あらすじ】

幸せな時間の沖田verです。出だしは同じですが一応違うストーリーになっています。

沖田さんが部屋の真ん中で自分の腕を枕に仰向けに寝ている。
真ん中で寝ているのがなんとも沖田さんらしい。

すーすーと幸せそうな表情で寝ているが、このまま放置しておいたら、風邪をひいてしまうかと思い、着ていた上着をかけてあげた。
が、そのとたんに沖田さんの目が開いた。

「何？寝込みを襲おうとでもしてたの？」

「なっ・・・！」

このときの私の体勢は膝をつき、身を乗り出して上着を持っているため、はたから見たらそう見えるかも知れない。

「違っ！あのですね・・・」

「・・・っははは！いやあやっぱり面白いね。君はさ」

顔を赤くしながら慌てて弁解していると、突然沖田さんが笑い出した。

冗談だったらしい。

「からかわないでくださいよ！」

「ぶつくくっ。ごめんごめん、面白そうだったからついね」

私が怒っても全く気にせず笑い続ける。まだ私の顔の赤さは取れない。

「ま、君なら襲われても良いかな」

「ちよっ、ま、またそんな冗談を・・・」

「半分本気なんだけどな」

「っ・・・！」

さらに顔が赤くなる。すでに言葉は出てこない。

「顔真っ赤だよ。大丈夫？」

悪戯っぽく笑いながら、沖田さんの顔が私に近づいてくる。

先ほどの会話のせいで変に意識してしまって・・・も・・・だめ。
ボタン

「あーあ顔真つ赤にして気絶しちゃったよ。まあ、そんなところも好きなだけどね」
ちゅっ

「あれ・・・？今・・・何時って・・・へ！？」

眠い目を擦りながらもう一度見ると、目の前には変わらず沖田さんの顔があつた。

「あつ起きた？千鶴ちゃん」

私に気づくのにこやかにそう言った。

「あつはい、何で私寝てたんですか？」

「んゝ・・・ま、いろいろあつて。それより今夕方だよ」

「へ！？」

一瞬で眠気が吹っ飛んだ。私が思い出せるところが午前中だったからどれだけの時間がたったんだろう。

「それと、寝心地はどうだった？」

「え、すみません！」

そう言われて初めて自分が沖田さんの膝に寝ていることに気がつき、慌てて謝った。

「別に良いよ。君は軽いしね」

「いいえ！長時間寝ていて邪魔だったでしょうし、お礼したいんですが」

良いよと言われても私の気がすまない。

「んじゃあ、貰っちゃおうかな」

「何をで・・・んぐっ・・・」

にこつと笑いながら言われたので尋ねようとしたら、突然目の前に秋田さんの顔があり、口が柔らかい物でふさがれていた。

「お礼は貰ったよ」

沖田さんはにこにこ手を振りながら部屋から出て行った。

「え？キ・・・キス・・・えー！！」

（後書き）

友達に沖田さんも書けと言われた結果です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0746i/>

お礼

2010年10月9日03時14分発行